

京都市内で麻しん（はしか）が発生しました

令和6年3月12日（火）、京都市内の医療機関から麻しん患者の届出があり、本市衛生環境研究所で検査を実施したところ、同日、麻しんと確定されました。

当該患者が、他の人に感染させてしまう可能性がある期間内の3月6日（水）に、不特定多数の方が利用する公共交通機関を利用したことが判明したので、広く注意喚起するものです。

なお、当該患者は、令和6年3月1日（金）に大阪府と東大阪市において報道発表を行った麻しん患者と関西国際空港で接触した可能性のある方です。

1 患者

30代 男性 京都市内在住

2 経過

3月7日（木） 発熱出現

3月8日（金） 鼻汁出現

市内医療機関A受診

3月10日（日） 咳、コプリック斑出現

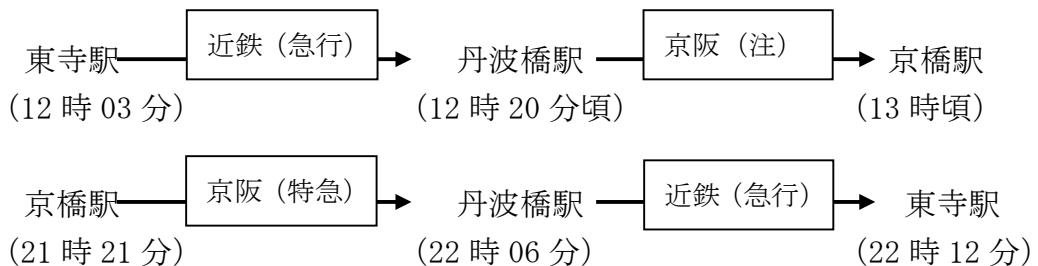
市内医療機関B受診

3月11日（月） 発疹出現

3月12日（火） 市内医療機関C受診

本市衛生環境研究所において検査を実施し、麻しん陽性判明

3 感染可能期間（3月6日（水））に利用された公共交通機関（前後の電車を利用された可能性あり）



(注) 特急もしくは快速急行の利用

麻しんの潜伏期間は10～12日（最大21日間）のため、感染可能期間の3月6日（水）から3月27日（水）までに発熱・発疹など、麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡のうえ、速やかに医療機関を受診してください。

なお、受診の際は、事前に医療機関に連絡のうえ、周囲への感染を広げないように、マスクを着用のうえ、公共交通機関等の利用は控えてください。

- ※ 鉄道会社への直接の問い合わせはお控えください。
- ※ 大阪市内での行動については、大阪市の報道発表を御確認ください。
<https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kenko/0000622495.html>

参 考

○ 本市の過去5年間の麻疹発生状況

年 次	市内発生数
令和元年	2名
令和2年～5年	0名

○ 麻疹について

1 麻疹とは

麻疹は、空気感染、飛沫感染、接触感染により感染します。感染性が非常に高く、今まで麻疹にり患したことのない人や麻疹のワクチンを接種したことのない人が麻疹ウイルスに暴露されると、ほぼ100%感染すると言われています。感染すると、約10日後に発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が現れます。その後、一旦熱は下がりますが、再び高熱が出て顔・首・全身に麻疹が現れ4～5日間続きます。症状は、7～10日で回復します。感染力のある期間は、発症の1日前から、解熱後の3日後までとされています。

2 注意喚起

麻疹を予防するためには、MRワクチン（麻疹風疹混合ワクチン）の接種が最も有効です。定期予防接種を未接種の方は早急に接種を御検討ください。また、医療・教育関係者や海外渡航を計画している方、麻疹の罹患歴がなく、2回の予防接種歴が明らかでない方は、予防接種を御検討ください。

麻疹を疑う症状がある場合は、事前に医療機関に電話で麻疹の疑いがあることを伝え、早めに医療機関を受診してください。

(参考) 麻疹・風疹（MR）予防接種定期接種対象者

第1期…生後12月から24月に至るまでの間にある人

第2期…小学校就学前の1年にある人*（いわゆる幼稚園等の年長に相当する人）

※令和5年度：平成29年4月2日から平成30年4月1日生まれの方